

# 平成30年度 島根県立松江東高等学校 学校評価表

| 評価計画                           |           |   |  | 自己評価  |  | 学校関係者評価  |  | 次年度への改善策 |   |   |
|--------------------------------|-----------|---|--|---|--|--|--|----------|---|---|
| 平成30年度教育目標                     | 番号        | 平成30年度の重点目標   | 目標達成のための方策   | 評価指標  | 評価   | 取組状況と課題  | 評価   |          | 意見  |   |
| 人とつながって生きる力を向上させる(高まっていく人間力)   | 1         | 自他の人権意識を尊重し、互いが高め合う切磋琢磨の推奨  | 生徒に丁寧に向き合い生徒が安心して学べる集団づくり                                | ・あいさつの励行<br>・人権・同和教育の推進(人権同和教育に関するLHRや講演会の充実を図る。研修等を通じ教職員の人権意識やいじめに対する認識を高める。)  | 生徒の感想文。生徒アンケート・保護者アンケートの評価。いじめアンケート・アンケートQUの分析。平素の生徒の観察。   | B  | 人権・同和教育の推進では、LHRの充実とともに、共生社会をテーマに特別支援学校に講師を依頼するなど、人権意識の高揚を多角的な視点で図り、一定の効果があつた。一方で、様々なアンケート等からも人権意識の醸成にはまだまだ課題があることがわかつた。対応には教員が組織的に対応するようにしたもの、根本的な解決にはより一層の人権教育の充実が必要である。 | A        | <ul style="list-style-type: none"> <li>様々な問題が表立って見えることは大事である。そこで見えたことに組織的に対応することが大事である。先生方は、真摯に対応されているが、課題や問題は解決に至ることが大事である。その中で人権意識の高揚をしっかりと図っていくことが肝要である。すべての生徒にとって安心、安全な学校づくりに今後も努めて欲しい。</li> <li>生徒の活躍は喜ばしい。ホームページ等で生徒が自らの活躍を積極的にアピールするようなことがあっても良いではないか。</li> <li>個別に配慮する事案は増えて来ていると思うが、全体への気配りに、より一層取り組んでいくことも大事である。</li> </ul>   | いじめアンケートやQU、生徒や保護者からの訴えがあれば、今年度以上に細やかにいじめ対策委員会を開き、組織的に、迅速かつ慎重で丁寧な対応をしていく。人権教育をあらゆる教科や教育活動を通じて充実させていく。         |
|                                | 2         |   | 様々な活動で主体的に活動   | ・生徒会の活動の充実(生徒会活動や委員会活動の機会を増やし、併せて内容の充実も図る。)<br>・部活動の推進(部活動紹介で入部を呼びかけ、活動の状況や成果を生徒に目に見える形で発信する。全国レベルの実績を目指す。文化祭・文化部合同発表を充実させる。) | 部活動加入状況。HPや学校だよりでの情報発信の状況。生徒アンケート・保護者アンケートの評価。   | A  | 部活動の加入率は例年通り高水準であつた。体育系では国体入賞や中国大会優勝、文化系でも全国5位相当の活躍があるなど、各方面での活躍が目立つた。そうした効果もあって、ホームページ等での活動状況の発信は昨年度よりも充実したが、まだ十分とは言えない。学園祭等では生徒の主体性をより喚起させるため、趣旨や目的等を周知徹底する必要がある。        |          |   | 今の状態を維持しつつもさらに活発な活動になるよう、部顧問と担任が連携をより一層図りながら、外部との連携も図りながら部活動の活性化を進めていく。                                       |
|                                | 3         |   | 生徒に丁寧に向き合い生徒が安心して学べる集団づくり                                | 各学年の生徒支援担当とも機能的に連携しながら、気づきシートや個別の指導計画なども活用し、支援や相談を効果的に行う。   | 対象生徒の状況。スクールカウンセラーの活用状況。気づきシートや支援計画・指導計画の作成・活用状況。  | A  | 生徒支援委員会や職員会議などを通じて生徒の情報共有を図りながら、適宜関係機関とも連携して、組織的に生徒を支援することは昨年度以上にできた。個別の配慮を要する事案も増えているので、教員研修をさらに充実させていく必要がある。   |          |   | 特別支援教育に関する研修をはじめ、教員研修の機会を増やし、個別の配慮をしていく意識と資質・体制を充実させていく。また、教員も自主的に研修や研鑽を積むように心がけていく。                          |
| 自己の未来を切り拓いていく力を向上させる(向かっていく学力) | 4         | 自ら学びを取りに行く生徒を育てる  | 「主体的・対話的で深い学び」   | 教育課程実践モデル事業を学校全体の取り組みとすることで、主体的・対話的で深い学びとなる授業を学校全体で展開していく。また、ETC・学力テスト・模擬試験の効果的な実施や課題の質や量を検討する。課題解決型学習や土曜講座を充実させる。            | 教育課程実践モデル事業に関わるアンケート等。授業アンケートの結果。学習時間調査の結果。学習成績、実力テスト成績。生徒アンケート・保護者アンケートの評価。   | B  | 教育課程実践モデル事業の最終年度であつた。授業評価アンケートや学習評価の改善、全教員によるアクティブ・ラーニング型の授業の実施など、一定の成果をみることもできた。より一層学校全体の取り組みにするために、事業は終了するが、その取り組みを継続して行く必要がある。家庭学習の充実については、早急に対策を練る必要がある。               | B        | <ul style="list-style-type: none"> <li>学習量の確保は、教科間の連携の問題や質の問題として考えることも大事ではないか。</li> <li>島根大学との連携を中心に、多くの高等教育機関や企業等と連携をするすることで、多様な価値観が見えやすくなる。</li> <li>授業評価を変えたことは良い。生徒が授業アンケートに意見を書くということは、わかりやすく教えて欲しいと言うメッセージであるから、PDCAをしっかりと行い、授業改善を進めて行って欲しい。</li> <li>土曜講座は、生徒にアンケートをとるなど、ポトムアップがあっても良い。これからは「やらされ感」のない勉強が大事である。</li> <li>AIの普及でなくなる仕事がある。逆に新たにできる仕事もある。その新たにできる仕事につけるか、そういう仕事が創造できるかが大事である。そういう意味でもアクティブ・ラーニング型の授業を進める中で、論理的な思考力を高めていくようにして欲しい。</li> </ul> | 教育課程実践モデル事業は終了したが、授業改善についての取り組みは継続・拡充させていく。例えば、「EAST通信」は今後も継続的に発行していく。生徒が主体的に家庭学習に取り組めるように課題等も見直していく。         |
|                                | 5         |   | キャリア教育の推進  | 地域、企業、大学(主に島根大・島根県立大)等と連携し、3年間を見通したキャリア教育を準備する。生徒が主体的にライフデザインを考えるような仕掛けを工夫する(東京研修、企業訪問、社会人講話)。                                | キャリア教育に関わる諸活動の事後アンケートの結果。生徒アンケート・保護者アンケートの評価。  | A  | 島根大学との連携が進み、総合的な学習の時間の内容も充実したものとなり、キャリア教育も体系化されつつある。学校の魅力化が喫緊の課題であることから、より3年間を通じた取り組みにしていく必要がある。   |          |   | 次年度立ち上げる魅力化推進部に、進路指導部からキャリア教育に関する業務を移行することで、より体系的なキャリア教育の構築を図っていく。  |
|                                | 6         |   | 「主体的・対話的で深い学び」   | 公開授業を全員実施とするなど校内研修を充実させるとともに、校外の研修や研究会に積極的に参加する。  | 公開授業・授業研究の実施・参観状況。授業アンケートの結果。校外研修、研究会等への参加状況。  | B  | 教育課程実践モデル事業の推進もあって、授業参観や教員研修は昨年度同様に活発であつた。授業評価アンケートの改善に加え、全教室へのICT機器の配備が追い風となって、アクティブ・ラーニング型の授業改善が進んだ。しかし、その充実に向けて実践を重ねる必要がある。   |          |   | 授業評価アンケートが、PDCAサイクルを回すためのものとなるよう、教員の個票の作成も検討する。また、アクティブ・ラーニング型の授業の方法や内容などを共有するための研修や公開授業等の回数を増やす。             |
| 7                              | キャリア教育の推進 | 生徒面談、保護者面談を定期的に行い、進路検討会を活用して一人ひとりの学力向上や進路目標実現を支援し、「自立への道程」を考えさせる。 | 生徒・保護者面談の実施状況。進路検討会等への参加状況。生徒アンケート・保護者アンケートの評価。平素の生徒の観察。 | B   | 生徒面談はどの学年もこまめに行うことができた。進路ジャーナルや学年通信などを昨年度同様定期的に発行することで保護者に情報発信を行うことができた。進路検討会は、進路指導部により参考資料の充実が図られるなど対策が講じられた。しかし、3年生の進路情報について他学年の教員への伝達は十分ではなかつた。 | 生徒面談からだけでなく、生徒に関する様々な情報や状況を知るために、教科担当者等と担任との連携をより一層密にする。進路検討会がより充実したものとなるよう、進め方や内容等をさらに工夫する。 |  |          |   |   |
| 地域社会の今と未来に関わる力を育成する(広がっていく社会力) | 8         | 地域社会への貢献意識を向上させ、地域に信頼される学校づくり                                     | 積極的な情報発信   | ホームページや学校だより「EAST NEWS」、進路ジャーナル、保健だより、学習センターだよりなど通して学校行事や部活動の状況を積極的に発信する。また、保護者との連携を密にし、PTA活動を促進する。                           | 学校だよりの発刊状況。ホームページの更新状況や閲覧状況。保護者アンケートの評価。   | A  | ホームページの更新日数は、昨年度以上に高めることができた。学校だより(「EAST NEWS」)や保健だよりなども内容の充実が図られた。PTA活動は、昨年度に引き続き学園祭に出店されるなど相互の連携が深まりつつある。  | A        | <ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページは、全体として誰に何を伝えようとしているか明確になると良い。生徒向けか、保護者向けか、地域へのPRかそのあたりを明確にしていく必要がある。</li> <li>地域との連携が進んでいることは評価できる。(地域)社会との接点をさらに増やしていくことが、地域を知るなかで、地域課題を自ら発見し深めていこうとする力を養うことにつながる。</li> <li>ボランティアの窓口がはっきりしていると良い。例えばHPで周知してはどうか。中高生でどれだけボランティアをやっているか、それがどれだけ自発的主体的に行われているかが重要である。そのためにも、学校として機会をもっと提供すべきである。</li> </ul>  | ホームページは、外部からの助言・指導も仰ぎながら、より学校の魅力を発信していくことができるものにする。保健だよりには生徒保健委員等の意見も取り入れるなど、学校刊行物に生徒の意見を積極的に取り入れていく。         |
|                                | 9         |   | 地域社会への貢献   | 近隣の学校(幼小中大)との連携を図る。さらに企業や社会人との連携を強化して、地域資源を生かした総合的な学習の時間等を推進する。   | キャリア教育に関わる諸活動の事後アンケートの結果。生徒アンケート・保護者アンケートの評価。地域の方々の声。  | B  | 吹奏楽部等の地域行事への参加に加え、川津幼稚園や川津小学校との交流活動が昨年度以上に活発に行われた。また、近隣の「学園台」「ニュー学園台」との交流活動も実施した。そのことで、地域社会への貢献意識の高揚とともに、生徒のキャリア教育の充実にも資することができた。  |          |   | 生徒がより主体的に地域との連携や交流に関わっていくためにも、行事や活動の機会を学校としてより多く設定し、生徒がその意義や魅力に気づくように仕掛けていく。                                  |
|                                | 10        |   | 地域社会への貢献   | ボランティア活動や学校設備・地域資源の有効利用を通じて、地域や学校の一員であるという意識を育てる。   | 生徒アンケート・保護者アンケートの評価。平素の生徒の観察。地域の方々の声。  | B  | 国宝松江城マラソンのボランティアなどボランティア活動は昨年度以上に活発化した。清掃活動の取り組みなどもおおむね良好である。今後、生徒がその意義を理解しながらより主体的に行うようにしていく必要がある。光熱費の高騰もあり、より一層省エネ・経費節減について、生徒・教職員とも意識をさらに高めていく必要がある。                    |          |   | 今後もゴミの持ち帰り、分別を呼び掛ける。生徒保健委員会による掃除用具の点検と整備を継続する。ボランティアについては、HP等を通じてより周知させていく。また、活動の様子を写真などを撮って広報することも次年度は行っていく。 |